

# 令和6年度 幸田町「スポーツ施設等の充実を図るための調査研究」報告書 概要版

## 序章 調査研究の概要

- ★ **調査研究の背景と目的**（報告書 P.3）
  - 幸田町は、第6次幸田町総合計画において、「きたえよう！こことからだ」と掲げ、町を挙げてスポーツや生涯学習に取り組み、住民が健康で文化的な暮らしを送ることを推進している。
  - 幸田町には計13のスポーツ施設が存在するものの、施設数が不足しており、予約が取りづらい等の問題が生じている。また、文化施設では、「幸田町郷土資料館」の老朽化、狭隘化により、資料の十分な保存環境並びに望ましい展示環境の確保が難しいなどの課題が生じている。
  - 本調査研究は、上記背景等を踏まえ、以下の4点を目的に掲げ、幸田町が今後スポーツ施設の検討を進めていくにあたっての基礎調査を実施する。
    - ①幸田町のスポーツ施設及び文化施設に関する現状を整理すること
    - ②スポーツ施設に関し、同規模の他自治体との比較、スポーツ施設利用者の声の収集等の各種調査を通じて、幸田町のスポーツ施設が抱える課題等を洗い出すこと
    - ③「総合体育館」について、一般的な事例等を踏まえ、求められる機能と規模、想定される事業手法の選択肢、概算整備費を検討する上での基礎的情報等を提示すること
    - ④「菱池遊水地上の緑地運動場」の基本構想を踏まえた屋外スポーツ施設の充足状況を評価すること
- ★ **調査研究の流れと全体像**（報告書 P.4）
  - ①【現状整理】幸田町のスポーツ施設及び文化施設に関する現状を整理
  - ②【各種調査・分析】幸田町内のスポーツ施設利用者に対してアンケートを実施し、利用者の声を収集  
人口1万人あたりの施設数を指標化し、他自治体と比較 等
  - ③【今後の方向性の検討】「総合体育館」整備の方向性検討、「屋外スポーツ施設」整備の方向性検討
- ★ **調査研究体制**（報告書 P.6）
  - 本調査研究は、幸田町及び一般財団法人地方自治研究機構を実施主体として、調査研究委員会の指導・助言の下、基礎調査機関である三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社の協力を得て実施。
  - 調査研究委員会は、令和6年7月・11月、令和7年2月に計3回開催。

## 第1章 幸田町の現状

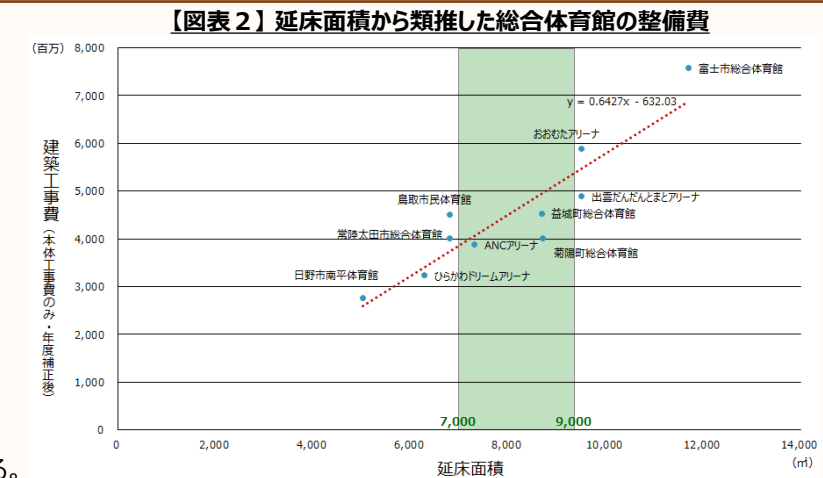
- ★ **幸田町の概要**（報告書 P.9）
  - 幸田町は、愛知県の中南部に位置し、蒲郡の臨海工業地帯と岡崎・豊田の内陸工業地帯を結ぶ交通の要衝となっている。
- ★ **幸田町のスポーツ施設と文化施設**（報告書 P.16）
  - スポーツ施設では、町内に、6つの運動場、3つのテニスコートに加え、グラウンド・ゴルフ場、体育館、弓道場、プールが各1つ、計13の公営施設【図表1】を有しているが、「施設数が少なく、予約がとりづらい」、「体育館が狭く、観客席もないため、スポーツ大会が開催できない」等の課題を有している。
  - 文化施設では、その代表的な施設である「幸田町郷土資料館」が昭和52年の開館から47年経過しており、「施設の狭隘化、老朽化」、「資料の十分な保存環境並びに望ましい展示環境の確保が困難」等の課題に直面している。
- ★ **屋外・屋内既存スポーツ施設に関する他自治体との比較・分析**（報告書 P.24）
  - 幸田町が所有するスポーツ施設と他自治体が所有するスポーツ施設の整備状況を単純比較し、その結果を分析した。
  - 比較対象の自治体は、「愛知県内における同規模人口自治体（新城市、高浜市、岩倉市、弥富市、東郷町、東浦町、武豊町）」、「人口構成が類似した自治体（日進市、みよし市）」及び「周辺代表自治体（田原市）」とし、対象自治体の各スポーツ施設における対応可能競技を整理した上で、競技別に「人口1万人あたりの施設数」を指標化し、自治体間で比較した。
  - 屋外競技において、幸田町は、11自治体中、「サッカー」は1位、「グラウンド・ゴルフ」は4位、「テニス」は5位であり、調査対象自治体の中では平均的な整備状況といえる。また、屋内競技において、「バスケットボール」と「バレーボール」では、幸田町は、突出している弥富市と東浦町を除き、他の調査対象自治体と同程度の指標値となっている。

【図表1】幸田町のスポーツ施設一覧

No	施設種別	施設	No	施設種別	施設	No	施設種別	施設
1	運動場	坂崎運動場	6	運動場	中央公園グラウンド	11	体育館	幸田勤労者体育センター
2	運動場	とぼね運動場	7	テニスコート	文化広場テニスコート	12	弓道場	弓道場
3	運動場	大日蔭運動場	8	テニスコート	豊坂テニスコート	13	プール	町民プール
4	運動場	深溝運動場	9	テニスコート	とぼねテニスコート			
5	運動場	坂崎遊水地	10	グラウンド・ゴルフ場	大日蔭グラウンド・ゴルフ場			

## 第2章 総合体育館整備の方向性検討結果

- ★ **事例調査を基にした幸田町における総合体育館の諸室構成・施設規模の整理**（報告書 P.31）
  - 国内他都市における総合体育館の施設概要を整理・比較した結果、主競技場や副競技場等で構成されるスポーツ施設部分は、幸田町においては約3,500㎡から4,000㎡程度が目安となる。付帯施設の導入状況によって規模は大きく変わるが、延床面積は約7,000㎡から9,000㎡程度と想定される。
- ★ **スポーツ施設以外の機能を導入した総合体育館の事例**（報告書 P.34）
  - スポーツ施設以外の機能として、子ども向け施設やカフェを導入した堺市（大阪府）、防災機能や文化施設を導入した神栖市（茨城県）、コミュニティ広場（市民の憩いの場）を導入した鳥取市の事例について調査した。
- ★ **整備費の類推**（報告書 P.37）
  - 近年整備された総合体育館の整備費と延床面積の関係から、幸田町の総合体育館の整備費を類推すると、40億弱～50億余程度と想定される。【図表2】
- ★ **官民連携の動きと民間活力活用手法の概要**（報告書 P.38）
  - 総合体育館等への導入が想定される民活手法や官民協働の概要を整理した。
- ★ **その他事業化に向けて検討すべき事項**（報告書 P.40）
  - スポーツ施設の整備により、地域が抱える別の課題を解決することができないかといった視点も持って検討することが有用である。
  - 導入機能や規模、用地、財政措置等に関する精査や、関連部署との調整、町民の合意形成など、必要なプロセスに相応の時間を要することも念頭に置く必要がある。



## 第3章 屋外スポーツ施設整備の方向性検討結果

- ★ **屋外スポーツ施設整備に向けた前提条件の整理**（報告書 P.43）
  - 菱池遊水地の平時における上部利用として、「緑地運動公園」の検討が進められており、そこにはサッカーコート2面、テニスコート5面、バスケットコート1.5面、スケートボード場などの屋外スポーツ施設が整備される予定である。
- ★ **菱池遊水地の上部整備有無による屋外スポーツ施設の充足度の比較・分析**（報告書 P.44）
  - 菱池遊水地の上部整備有無を考慮した上で、幸田町と他自治体が所有する屋外スポーツ施設の整備状況を単純に比較することで、充足度およびその変化の状況を分析した。
- ★ **屋外スポーツ施設整備の方向性まとめ**（報告書 P.47）
  - 菱池遊水地の上部整備後、「サッカー」は1.5倍、「テニス」は1.8倍、当該競技のキャパシティが向上した。
  - テニスコートが同一施設に5面整備されることで、従来とは規模の異なる大会等の開催が可能になり、多くの誘客が期待できる。また、サッカーとテニスの両競技の環境が同時に整備されることで、幅広い利用者層に効果が波及することが考えられる。

## 第4章 調査研究を終えて

- 本調査研究の結果から、屋外施設の充足については一定の改善が期待できることから、今後は屋内施設の充実が課題となる。
- 新博物館の基本構想・基本計画、本調査研究の結果を活用して、文化施設及びスポーツ施設の充実に向けて、計画的で実効性のある検討を進めていきたい。（報告書 P.51）